

# 巻頭特集：大阪版平成の環境年表 ～平成の大阪、未来の大阪～

## はじめに

皆さんにとって平成はどんな時代でしたか？まもなく平成という元号が改められ、新たな時代を迎えます。大阪の環境の歴史を振り返ると、古くは明治時代から騒音・振動・汚水・ばい煙といった公害問題が発生しました。昭和40年代には経済の発展に伴い公害問題が深刻化し、生活環境・自然環境の重要性が府民に浸透してきました。その後、地球温暖化など、環境問題は複雑化・多様化し、それまでの工場等と住民の間にあった加害者と被害者という対立関係から、誰もが加害者でもあり、被害者でもあるという構造に変化してきました。

そこで、今回の特集では、「低炭素・エネルギー」「生活環境」「廃棄物」の3つのテーマについて、第1章で平成の30年を振り返り、第2章で2100年の大阪について環境がどう変わっているかを考えます。

この巻頭特集を通じて皆さんが大阪の環境の歴史を知り、未来と一緒に考えることで環境に興味をもってもらいたいと思います。

## 第1章 平成を振り返る

3つのテーマについて平成の30年を振り返ってみましょう。

### 低炭素・エネルギー

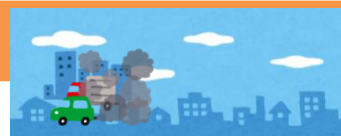


低炭素社会を目指す動き、地球温暖化・エネルギー問題などについて

#### 昭和までの状況

公害問題と言えば大気汚染や水質汚濁など地域の問題が中心でしたが、昭和50年代には酸性雨の問題、昭和60年代にはオゾン層の問題が顕在化し始め、地球規模の環境問題への取組みが必要となってきました。エネルギー利用については、石炭から石油さらに天然ガスへとシフトしていきました。また、「省エネルギー」の重要性が認識され始めました。

### 生活環境



公害問題、身近な生活環境、多様な生物との共存について

#### 昭和までの状況

戦後の高度経済成長期、工業の発展に伴い様々な公害が問題となりました。これらへの対策が進む一方で、大量消費・大量廃棄の生活が定着し、問題は都市生活型公害へと変化しました。

### 廃棄物



廃棄物の処理・リサイクルなどについて

#### 昭和までの状況

江戸時代の日本では都市部で発生したし尿が買い取られ、農村部で肥料として循環されていました。明治時代以降、ごみの増加やそれに伴う最終処分場の不足など数々の課題が発生してきました。

社会に関する出来事&大阪ニュース

昭和から平成に改元。（平成元年1月8日）

消費税法の施行。（平成元年4月1日）  
大阪市の区体制変更（平成元年2月13日）  
北区と淀川区が合区して北区が誕生し、東区と南区が合区して、中央区が誕生。

写真1 国際花と緑の博覧会場



「花と緑と人間生活のかかわりをとらえ21世紀へ向けて潤いのある豊かな社会の創造をめざす」をテーマに、83ヶ国と55の国際機関が参加し、特別博覧会史上最高の総来場者数を記録。

国際花と緑の博覧会（平成2年4月1日～9月30日）  
鶴見緑地で国際博覧会が開催。

写真2 海遊館の外観  
海遊館の開業（平成2年7月20日）  
大迫力の巨大水槽で環太平洋を表現する世界最大級の水族館が大阪市港区に誕生。



★コラム1  
「海遊館と大阪湾」

海遊館では、多様な生物の飼育だけでなく、一般の参加者を交えた大阪湾に関する調査研究や環境活動、学習会などを開催しています。また、館内では関西の水域環境に着目した企画展示を不定期に開催しています。海遊館を通じて、大阪湾の中を覗いてみませんか？

パブル景気が崩壊。（平成3年～5年）

世界で初めて高輝度の青色LEDが発明され、実用化。（平成5年11月）

☆LEDとは？  
発光ダイオードと呼ばれる光源のひとつです。青色LEDの登場により、様々な色の光を作り出すことが可能となりました。  
LEDの発展に大きく貢献した赤崎勇教授、天野浩教授、中村修二教授の3名には、平成26年にノーベル物理学賞が授与されました。



H5 環境基本法の制定

H5 「ニューサンシャイン計画」発表  
持続的成長とエネルギー・環境問題の同時解決を目指す策定。

H4 気候変動枠組条約第1回  
締約国会議（COP1）の開催  
ドイツで開催され、COP3までに新たな「議定書あるいは法的文書」に合意すること等が決定。

H4 国連環境開発会議（地球サミット）の開催  
ブラジルのリオデジャネイロで、地球温暖化などの地球環境問題を人類共通の課題と位置付け、「持続可能な開発」という理念の下に環境と開発の両立を目指す開催。

H4 国連環境開発会議（地球サミット）の開催

持続可能な開発に向けた地球規模での新たなパートナーシップの構築に向けたリオ宣言と、この宣言の諸原則を実施するための行動計画である「アジェンダ21」を合意。

生物多様性条約の採択

地球規模で生物多様性の保全を目指すもので、地球サミットで署名が開始。



☆公害対策基本法と環境基本法  
公害対策基本法は、水俣病や四日市ぜんそくなどの公害問題に対処すべく昭和42年に制定されました。しかし、時代の流れとともに、公害問題がより複雑化した結果、環境に関する分野についての国の政策の基本的な方向を示すものとして、環境基本法が制定されました。

H4 自動車NOx法の制定

自動車排出ガス中のNOx（窒素酸化物）の総量を削減することを目的として制定。



H3 再生资源の利用の促進に関する法律の制定

資源の有効な利用の確保を図り、大量生産・大量消費・大量廃棄型の社会システムから脱却するために制定。  
地方自治体でも再生利用推進への積極的な取組みをスタート。



H3 廃棄物処理法の改正

廃棄物の排出抑制と再資源化を目的に追記。

H3 「NewSTEP21」（大阪府新環境総合計画）の策定

H2 大阪府環境保全基金の設置  
環境の保全に関する知識の普及と環境保全活動の推進を目的に、個人・企業・団体からいただいた寄附を基金に積み立て、大阪の豊かな環境の保全や創造のための様々な事業に活用。

府

H2 ノーマイカーデー  
（毎月20日）の開始

車社会の進展に伴い深刻化している交通渋滞、違反駐車、窒素酸化物による環境汚染等の問題を解消するために開始。

府

H2 大阪湾広域臨海環境整備センター（大阪湾フェニックスセンター）の廃棄物受け入れ開始

大阪湾圏域から発生する廃棄物を適正に埋立処分し、生活環境の保全を図ること、埋立てた土地を活用して港湾の秩序ある整備をすることを目的に尼崎沖で受入開始。

写真3 尼崎沖埋立処分場



低炭素・エネルギー

生活環境

廃棄物

環境に関する出来事

このマークは環境に関する出来事のうち、大阪府の取組みや府域で起こった出来事など、府と関係が深い項目です。

長野県で冬季オリンピックが開催。  
(平成10年2月7日～22日)

トヨタ自動車株式会社から、世界で初めての量産ハイブリッド車「プリウス」が発売。(平成9年12月10日)

阪神・淡路大震災(平成7年1月17日)

兵庫県淡路島北部で震度7を記録。



神戸市を中心とした阪神・淡路地域に甚大な被害を与え、死者6千434名、行方不明者3人、負傷者4万3千人792名(平成18年5月19日現在)。

大阪府においても被害は大きく特に豊中市では、死者11名、負傷者2千496名(平成8年12月31日現在)。

▲写真6 神戸市内での状況

関西国際空港の開港(平成6年9月4日)

大阪府泉佐野市、泉南市及び泉南郡田尻町の2市1町の沖合に造られた人工島に開港。



▶写真4 開港当時の関西国際空港

★コラム2 「関西国際空港と大阪湾」

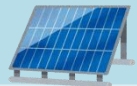
人工島には海の環境に配慮した工夫がなされているをご存知でしょうか。豊かな海の創生には多くの生き物の餌や住処となる海藻の育成が不可欠です。

人工島の周りには藻場造成のため石やブロックがならかに積み上げられた緩傾斜護岸が作られており、関空そのものが大きな漁礁として多様な生物の命を支えています。

H10 地球温暖化対策推進法の制定

H9 新エネルギー法の制定

太陽光発電、風力発電等を新エネルギーとして位置づけ、加速的導入を目指す。



★京都議定書とは？

先進国の温室効果ガス排出量についての法的拘束力のある数値目標を各国ごとに設定しました。先進国全体で、2008年から2012年までの約束期間に、基準年の排出量から5.2%削減することを約束し、日本は6%の削減を約束しました。

対象ガス

二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン、HFC、PFC、SF6。

H9 京都議定書の採択

京都で開催され、日本が議長を務めたCOP3において先進国の拘束力がある削減目標(2008年～2012年)の5年間で1990年に比べて日本6%、米国7%、EU8%等を規定。



世界全体での温室効果ガス排出削減の大きな一歩を踏み出す。

H7 大阪府地球温暖化対策地域推進計画の策定

2010年度を目標年度とする温室効果ガスの削減目標を設定。

府

H10 大阪府環境影響評価条例の制定

H9 環境影響評価法の制定

★ダイオキシン類とは

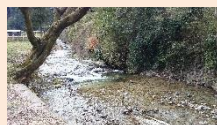
有機塩素化合物の一種で、ものが燃焼する過程において非意図的に生成します。多量の暴露では、発がんの促進や生殖機能等への影響があることが動物実験で報告されています。

府 H9 ダイオキシン問題

豊能町と能勢町で共同運営するごみ処理施設内とその周辺で高濃度のダイオキシン類が検出。

★コラム3 「きれいになった大和川」

大和川は、平成17年から3年連続で1級河川中全国ワーストワンのほど、汚い川として有名でした。



▶写真6 大和川流域の石見川

しかし、下水道の整備や合併処理浄化槽の普及などの生活排水対策の推進により、平成20年以降、測定地点全てで環境基準を達成しており、平成22年、23年には、「過去10年間で水質が大幅に改善されている河川」で全国第1位になりました。

府 H8 大和川水環境サミット

府 H6 大阪府生活環境の保全等に関する条例の制定

府や事業者、府民の責務を明らかにし、府の施策の推進、公害防止のための規制を行い、府民が健康で豊かな生活を享受することができることを目的に制定。

府

H10 家電リサイクル法の制定

家電製品(エアコン、テレビ、冷蔵庫など)から、有用な部分や材料をリサイクルし、廃棄物の減量と、資源の有効利用を推進するための法律。



府 H8 大阪府分別収集促進計画の策定

府内における容器包装廃棄物の発生抑制や再商品化率の向上など循環型社会の実現を目指す計画。

H7 容器包装リサイクル法の制定

家庭ごみの約6割を占める容器包装廃棄物のリサイクルを進めるためにつくれた法律。

★コラム4 「みんなで減らそう!」食品ロス」

食品ロスとは、また食べられるのに、食品が廃棄されてしまうことをいいます。店や家庭などで発生し、日本全体では年間約646万トン(平成27年度実績)も発生しています。これは、国連による世界全体の食料援助量約320万トン(平成27年度実績)の倍以上の量となっています。

近年、これを削減する取組みが広がっています。私たちも食材等の買い物の際には確実に使い切れるだけを購入する、外食の時には食べ切れる分だけを注文するなどすぐに実践できることがたくさんあります。

大阪府では、「大阪府食品ロス削減事例集」を作成しています。

食品ロスの削減に向けて、できることから始めてみましょう!



画像1 大阪府食品ロス削減事例集

府 H6 大阪府環境審議会設置

府 H6 大阪府環境基本条例の制定

環境権を前文で宣言し、環境基本法の「環境の保全」に加え、都市環境、歴史的文化的環境にまで環境の範囲を広げる等の特徴とした基本条例を制定。

府 豊かな環境づくり大阪府民会議設置

社会に関する出来事&大阪ニュース

新紙幣二千円札の発行。(平成12年7月19日)



新エリアおよびアトラクションの増設に伴うエネルギー需要の増大に対応すべく、高効率照明への転換や高効率空調機器を採用するなどより効率の良いエネルギー利用の促進にも取り組む。

写真7 シンボルのユニバーサル・グローブ

大阪市此花区で開業。ハリウッド映画をテーマにしたアトラクションだけでなく、平成26年には映画「ハリウッド・ホテル」をテーマとしたエリア、平成29年には「ミニオン・パーク」を新たにオープンし、国内外から多くの来場者を集客。

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)の開業(平成13年3月31日)

国内で初めて牛海綿状脳症(BSE)の発生を確認。(平成13年9月10日)

完全学校週5日制の下、教育内容の厳選・授業時間の縮減を実施。(平成14年4月)

日本と韓国との2ヶ国においてアジアで初めてのFIFAワールドカップが開催。(平成14年5月31日~6月30日)



JR西日本で「ICOCA」のサービスが開始。(平成15年11月1日)

府

H11

府庁本庁舎において環境ISOの認証取得

H11 自動車の燃費基準や電子機器の省エネ基準に「トップランナー」方式導入

府

H12

大阪府地球温暖化対策地域推進計画の改定

府

H13

大阪府グリーン調達方針の策定

H13 環境省の発定

これまで行ってきた環境庁の任務を引き継ぐとともに、厚生省の所管であった廃棄物部門が移行され、廃棄物リサイクル対策を一元化。(平成13年1月6日)

府

H14 エネルギー政策基本法の制定

H14 大阪21世紀環境総合計画の策定

H15 エネルギー基本計画の策定

★コラム5 「地球温暖化で桜が開花しなくなる!?」

近年、年を経るごとに桜の開花時期が早まっています。原因には桜の開花メカニズムと地球温暖化の影響があると考えられており、このまま開花が早くなる流れが止まらなければ近い将来、春に桜が見られなくなる地域もあるといわれています。

H14 京都議定書の批准



H13 自動車NOx・PM法の制定



H14 土壤汚染対策法の制定  
土壌汚染の調査や、土地の適切な管理の仕方について定めている法律。  
法では、有害物質を含む土壌を直接口や肌から摂取するリスクや、有害物質が地下水に溶け出して、その地下水を飲むことによるリスクがあるとされており、これらによる健康被害の防止が目的。

府

H14 大阪府廃棄物処理計画の策定

一般廃棄物と産業廃棄物両方に関して、府内から発生する廃棄物の最終処分量を平成9年度のおおむね半分にするとという目標を策定。

★コラム7 「舞洲工場の完成」  
大阪市此花区にある芸術的な建築物を知っていますか?遊園地?モニユメント?実は廃棄物の焼却場なんです!  
壁面の赤と黄色のストライプは工場の内部で燃焼する炎を表現しています。オープンテラスには廃棄物の焼却の様子を見られるフロンティア等が開催されています。

写真8 工場の外観

低炭素・エネルギー

生活環境

廃棄物

環境に関する出来事

アメリカの投資銀行であるリーマン・ブラザーズホールディングスが経営破綻。これが引き金となり世界規模の金融危機、いわゆる「リーマンショック」が発生。  
(平成20年9月15日)



大阪名物くいだおれ閉店  
(平成20年7月8日)

大阪を代表するキャラクターのひとつである「くいだおれ太郎」が一時道頓堀から姿を消す(翌年7月に同じ道頓堀の「中座くいだおれビル」に復活)。

▲写真9 くいだおれ太郎の写真

G8北海道洞爺湖サミットの開催。環境・気候変動などを議論。  
(平成20年7月7日~9日)

一般向け緊急地震速報の運用を開始。  
(平成19年10月1日)

郵政民営化関連連法により、日本郵政株式会社と4つの事業会社に分かれ、民営化。  
(平成19年10月1日)



第1回東京マラソンが開催。国内のマラソン大会としては当時としては最多の3万8700人の参加者を記録。  
(平成19年2月18日)

兵庫県尼崎市でJR福知山線脱線事故が発生。  
(平成17年4月25日)

愛知県で日本国際博覧会(愛知万博)が開催。  
(平成17年3月25日~9月25日)

現行の1万円、5千円、千円の新紙幣が発行。  
(平成16年11月1日)

新潟県中越地震(平成16年10月23日)新潟県中越地方で震度7を記録し、死者68名、負傷者4千172名(平成21年10月21日現在)。

大正14年以来79年ぶりに国内で高病原性鳥インフルエンザが発生。(平成16年1月12日)

**H19 「温暖化には疑う余地がない！」**  
気候変動に関する科学者の集まりである「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」は、第4次評価報告書の中で、「温暖化には疑う余地がない」と断定。

**府 H18 大阪府温暖化の防止等に関する条例**  
エネルギーを多量に使用する事業者等に対し、温暖化対策の計画や報告の届出などを義務付け。

**H17 クールビズのスタート**  
冷房時の室温を28度で快適に過ごせる軽装や取組み。



**★コラム8 「大阪は暑いー？」**

1900年から100年間で大阪では年平均気温が2.1度上昇しており、全国平均の1度を上回る速度で温暖化が進行しています。この差の1.1度はヒートアイランドの影響だと考えられています。

▲図1 大阪と日本における年平均気温の推移

**府 H16 大阪府ヒートアイランド対策推進計画の策定**  
住宅地域における夏の夜間の気温を下げ、2025年までに夏の熱帯夜数を現状より3割減らすなどの目標を設定。

**府 H20 トラック、バス等の運行に関する規制「流入車規制」の実施**

**★コラム9 「生物多様性を守るには」**  
私たちはどのような行動をとればよいでしょうか。国連生物多様性の10年日本委員会では、「My行動宣言」として私たちが日常生活の中で出来る5つのアクションを紹介しています。みんなのできることから始めましょう。

**H20 生物多様性基本法の制定**  
生物多様性の保全と持続可能な利用に関する施策を総合的・計画的に推進することで、豊かな生物多様性を保全し、その恵みを将来にわたり享受できる自然と共生する社会を実現することを目的として制定。



**★アスベストとは**

アスベストは石綿とも呼ばれ、軟らかく、耐熱・対磨耗性にすぐれているため、建築材などに広く利用されてきました。

しかし、繊維が肺に突き刺さったりすると肺がんなどの原因になることが明らかにになり、使用が制限、禁止されるようになりました。

▲写真10 アスベストの画像

**府 H17 アスベスト(石綿)による健康被害問題**  
アスベストを使用した資材を製造していた業者で、製造に携わっていた従業員や、周辺住民が被害を受けていたことが判明。

**府 H16 外来生物法の制定**  
海外から日本へ持ち込まれ、日本の生態系を乱すおそれのある外来生物の取扱い規制及び防除を行うことを目的に制定。

**府 H18 大阪府廃棄物処理計画の改定**

課題になっている大量廃棄物、有害廃棄物、不適正処理の悪質化・巧妙化等の課題の解決に向けて、廃棄物の発生抑制、最終処分廃棄物の削減と適正処理、市民・事業者・市町村との連携等を定める。

**★PCB(ポリ塩化ビフェニル)とは?**  
化学的に安定で電気絶縁性が高いなど、工業的に優れた化合物でしたが、難分解性、生物蓄積性・濃縮性、揮散・移動性などの性質と、不純物のPCDF(ポリ塩化シベンソフラン)との複合的な作用により、カネミ油症事件の原因となっています。PCBは昭和47年通産省により製造中止、回収等が指示されました。

PCBの問題は製造中止、回収指示から処理施設整備までに時間がかかり、その間に多くのPCBが行方不明になったことです。



高濃度PCBは平成33年3月末まで、低濃度PCBは平成39年3月末までに処理することが義務付けられています。処理の完了に向け、取組みが行われています。

**府 H18 JESCO大阪PCB廃棄物処理の開始**  
PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法に基づき、国からPCB廃棄物の無害化処理を実施。

**府 H16 大阪府循環型社会形成に関する基本方針の策定**

**府 H15 大阪府循環型社会形成推進条例の制定**  
当時大阪府では、一般廃棄物の排出量が全国2位、一人一日当たり排出量が全国1位と、廃棄物の大量排出などが課題。この方針では、府民や事業者への意識醸成・行動促進、技術革新の促進、不適正処理撲滅などにより、循環型社会の形成を目指した。

社会に関する出来事&大阪ニュース

富士山が世界文化遺産に登録。  
(平成25年6月22日)

グランフロント大阪の開業(平成25年4月26日)

大阪市北区に複合商業施設「グランフロント大阪」が開業。

東京都墨田区に東京スカイツリーが電波塔として開業。  
平成30年12月現在、日本で最も高い建築物。  
(平成24年5月22日)



第1回大阪マラソンの開催(平成23年10月30日)

大阪市内で第1回大阪マラソンが開催され、2万9163人が参加。

また、本大会は出場者全員から募金を募り、医療や環境などをテーマにした分野から希望寄付先を選択する仕組みを採用したチャリティーマラソンであり、チャリティ文化の普及を目指す。

スローガンは「虹をかける」の「架ける」と「走る」の「駆ける」を掛け合わせた「みんなでかける虹。」



東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)  
(平成23年3月11日)

東北地方で震度7を記録し、地震だけでなく津波による甚大な二次災害が発生。  
死者1万9千667名、行方不明者2千566名、負傷者6千231名(平成30年9月7日現在)。

世界で始めて天体に着陸しサンプルを持ち帰った小惑星探査機「はやぶさ」が地球に帰還。  
(平成22年6月13日)

鹿児島県種子島宇宙センターから世界で初めての温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」の打ち上げ。  
(平成21年1月23日)



H24 F1T法の制定

再エネ発電は火力発電などよりも発電コストが高く、導入が進まない状況であった。

そこで、再エネ発電の電力を高値で買い取ることで、再エネ発電をおこなう事業者を増やし、再エネの導入を広めることを目的として制定。



H24 地方独立行政法人

大阪府立環境農林水産総合研究所の設立

H23 大阪21世紀の新環境総合計画の策定

H22 気候変動枠組条約第16回締約国会議(COP16)「カンクン合意」

温室効果ガスの排出削減について、先進国・途上国両方の削減目標・行動を位置付け。  
また、緑の気候基金という新たな基金の設立、技術メカニズムの設立などが明記されるとともに、発展途上国向けの気候変動適応計画の策定や、途上国における森林減少・劣化対策等(REDD+)といった途上国支援に関連した事項を盛り込む。

府

H21 大阪エコカー普及戦略の策定

エコカーとは、走行時の排出ガスが少ないまたは全く出ない環境にやさしい自動車のこと。

本戦略は、平成32年(2020年)までに府内の自動車の2台に1台をエコカーとすることを目標。

低炭素・エネルギー

H25 水銀に関する水俣条約の採択

水銀の排出を削減し、水銀汚染防止を目指すことを目的として採択。

H25 大阪府における岩手県の災害廃棄物処理の開始

東日本大震災により、被災地では膨大な災害廃棄物が発生し、復興の大きな課題となっていたため、大阪府は岩手県の災害廃棄物の処理に協力することを決定。あらかじめ試験処理により安全性を確認したのち、大阪市と協力して廃棄物の受け入れ及び処理を実施。

府

H22 生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)が開催

「いのちの共生を未来に」をテーマに名古屋で開催。  
▲画像3 COP10/MOP5ロゴマーク



府

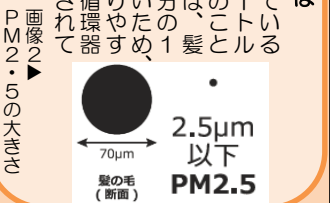
H24 大阪府循環型社会推進計画の策定

一般廃棄物については一人一日あたりの排出量、再生利用率、最終処分量の3つの指標が当時全国ワースト1(計画期間中に排出量、再生利用率ワースト1から脱却したものの、計画期間中は全国平均を下回る水準)という状況の中、法に基づき「廃棄物の減量と適正な処理」に加え、「循環型社会の構築」として、3Rに関連する事項についても広く対象として策定。

府

H21 PM2.5の環境基準の設定

呼吸器疾患、循環器疾患及び肺がんに関する様々な国内外の疫学知見を基に、基準を設定。



★PM2.5とは

大気中に浮遊している2.5マイクロメートル以下の小さな粒子のことです。その大きさは、髪の毛の太さの30分の1程度と非常に小さいため、肺の奥深くまで入りやすく、呼吸器系や、循環器系への影響が心配されています。

画像2 PM2.5の大きさ

生活環境

環境に関する出来事

廃棄物

H24 小型家電リサイクル法の制定  
使われなくなったパソコンや携帯電話などの小型家電をリサイクルする法律。  
日本全体で1年間に使われなくなった小型家電は、約65万トンと推定。その中には鉄や銅、金や銀といった有用な金属が多く含有。



2025年大阪・関西での万博開催決定  
(平成30年11月24日)

「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに、2025年5月3日から11月3日までの185日間大阪の夢洲(ゆめしま)で開催予定。

北海道胆振東部地震(平成30年9月6日)

北海道胆振東部で震度7を記録し、死者41名、負傷者749名(平成30年10月29日現在)。

大阪府北部を震源とする地震(平成30年6月18日)

大阪府北区、高槻市、枚方市、茨木市、箕面市では震度6弱を記録し、死者6名、負傷者369名(平成30年11月2日現在)。

多くの鉄道が地震により運転を見合わせ交通網がまひ状態となり、帰宅困難者が多数発生。

改正公職選挙法が施行され、選挙権年齢が18歳以上に引き下げ。(平成28年6月19日)

G7伊勢志摩サミットの開催。  
(平成28年5月26日～27日)

熊本県熊本地方を震源とする地震  
(平成28年4月14日、16日)

熊本県熊本地方において震度7を記録し、死者272人、負傷者は2千808人(平成30年10月15日現在)。

あべのハルカスの開業(平成26年3月7日)



大阪市阿倍野区に開業した日本で最も高いビル(平成30年12月現在)。施設では省CO<sub>2</sub>に取り組みするため、太陽光や風をビル全体で活用するための工夫を導入。

生こみ等を利用してバイオガスを発電を行う最先端の省エネルギー技術を日本に初めて高層ビルに導入。

▶写真12  
あべのハルカスの外観

平成29年にはグッドデザイン賞を受賞。

H30 第五次環境基本計画の閣議決定

☆緩和と適応が重要!

近年の台風など異常気象は、気候変動の影響が考えられています。

地球温暖化対策として、CO<sub>2</sub>排出量を抑える等の「緩和策」と、温暖化している地球・都市に適応する「適応策」があります。



画像4▶  
「あまさか 気候変動 適応 ハンドブック」

H29 大阪府地球温暖化対策実行計画(区域施策編)の改定

気候変動の影響への「適応」の着実な推進を図るため改訂。今後、緩和と適応を両輪として取り組んでいくことを掲げる。

府

H29 大阪でヒアリを確認

特定外来生物であるヒアリが国内で初確認され、大阪でも発見。ヒアリは、毒針を持ち刺されるとやけどのような激しい痛みを生じることから「火蟻」の名がある。

☆特定外来生物とは

外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼすおそれがあるものの中から指定されます。

H28 大阪府森林環境税の創設

自然災害から暮らしを守り、健全な森林を次世代へつなぐために創設。

H30 第四次循環型社会形成推進基本計画の閣議決定

H28 大阪府循環型社会推進計画の改定

前計画で目標としていた循環型社会の構築に向けたさらなる取組みに加え、東日本大震災の教訓を踏まえ、大規模災害発生時における廃棄物の適正処理体制の構築の項目などを追加。

H27 持続可能な開発のための2030アジェンダを国連総会で採択

画像5 SDGs



H27 建設・地表面の高温化抑制や人工排熱の低減等の取組みである「緩和策」の推進や、人の健康への影響等を軽減する取組みである「適応策」について推進すること、熱帯夜日数の削減、暑熱環境の改善を目指す。

H27 気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)「パリ協定」の採択

世界の気温上昇を産業革命前に比べ、2度未満に抑える目標の設定や、すべての国による削減目標の5年ごとの提出・更新等を位置づけ、先進国、途上国を問わず、歴史上初めて当時のすべての国が国情に応じて主体的に参加することを実現化した公平な合意。

H28 世界経済フォーラム(ダボス会議) 海洋ごみに関する報告書を発表

海へ流出したプラスチックは、波風で砕かれてマイクロプラスチックと呼ばれる微小なごみとなり、海洋生物の生態系に悪影響を与えてしまつことが懸念されています。

★コラム10 「プラスチックごみをめぐる世界の動き」

EUは、2030年までに使い捨てプラスチックを全廃する目標を掲げた「プラスチック戦略」を表明し、ストローなどの使用を禁止することを提案するなど、規制を強化しています。

日本でも、「プラスチック資源循環戦略」を策定する動きや、企業の自主規制の動きなどが広まっています。



H27 G7ヘルマウ・サミット首脳宣言(ドイック)

海洋環境の保護のため海洋ごみに世界が注目。

## 平成30年間で府民の環境に関する意識の変化

表1は、府民が常々不満に感じていることについて、平成2年度に行った意識調査と、同じ質問を平成30年度に実施した結果の比較です。

**「工場など騒音、悪臭などの公害がある」の割合は、平成2年度では16%で4位だったのが、平成30年度は5.6%で14位**となっており、また**「ゴミが多く、不衛生である」の割合は、平成2年度では8.7%で10位だったのが、平成30年度は5.5%で15位**となっています。これら環境に関する項目は、いずれも割合・順位ともに下がっていました。

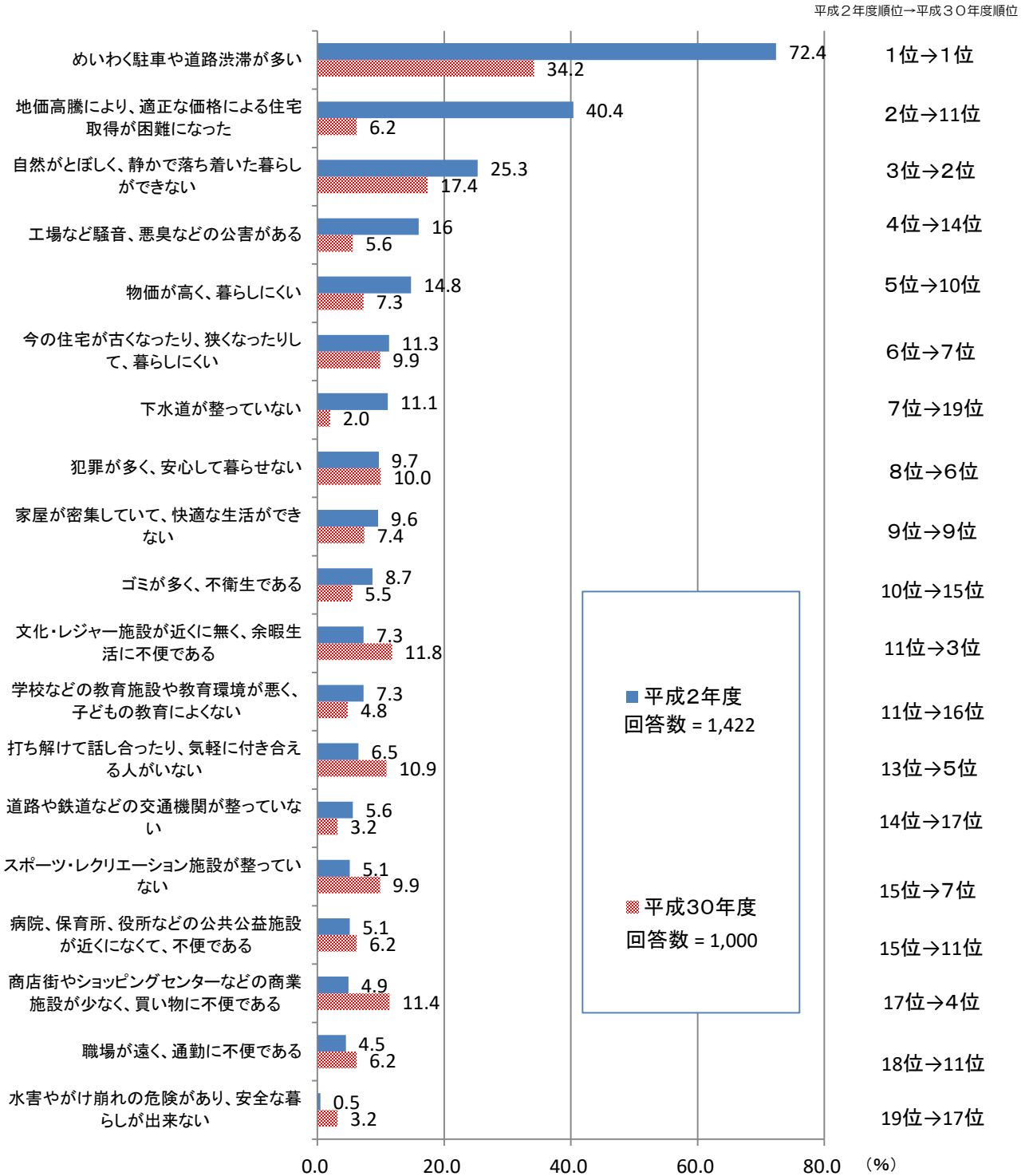


図2 「大阪に」住んでいて、常々不満に感じていることの割合の変遷（平成2年度府民意識調査と平成30年度調査の比較）